

# 会議状況等報告書

会議の名称	第2回大府市緑化推進委員会
日時	令和6年9月26日(木)9時00分～
場所	大府市役所 5階 委員会室I
出席者	樋口委員長、水谷委員、服部委員、只井委員、櫻井委員、深谷委員、小野委員 伊藤部長、深谷課長、清水係長、鎌田主査、山田主任、奥村主事

## 1. あいさつ

委員長あいさつ

## 2. 議題

(1) 大府市緑の基本計画の実施状況について【資料1】

事務局) ---【資料に基づき実施状況について説明】---

委員) 鞍流瀬川の河川清掃が環境課と水緑公園課とで連携協力ができるか。同じ河川清掃でも所管が違うため連携して地域コミュニティをバックアップして欲しい。

事務局) 環境課とはいろんな事業で連携しているため、今後も協力していきたい。6月に行った至学館大学の学生が参加した精霊流しは流したものを回収する必要がある川の中に入るため、河川清掃も一緒に行った。

委員長) 今後精霊流しは継続していくのか。

委員) 良い取り組みでもどこが主体となって継続していくのかを行政側にもっと関与して欲しい。

事務局) 地域活動の人手不足はどこでも課題になっており、職員も住んでいる地域で参加に努めている。やる事業内容によってどうしても内容に詳しい部署が変わってしまいたくさんの部署が関わるようになってしまいが、できるだけ市役所の中でも部署を統一して関わられるようにしていきたい。

事務局) 昨年度の精霊流しについては大府福祉会から協力依頼があったため、サポートをする形をとった。今年度は行っていない。

委員長) 実行委員会方式や地域団体の活動をうまく使い分けて連携していくとよい。

委員) 北山1号公園の整備状況を教えて欲しい。

事務局) 順調に進めば令和7年度整備、完成の予定。

委員長) みどりの少年団について教えて欲しい。

事務局) みどりの少年団は愛知県の緑化推進委員会が主体で行っている事業である。大府市では年に3回活動しており、つつじまつりでの緑の募金啓発、みどりの学習教室という豊田市の緑化センターでの課外活動、他市のみどりの少年団との交歓会がある。交歓会では植樹等を行っている。大府市では各小学校、輪番制で2校に協力をいただいている。団員は各小学校の緑化委員の児童になってもらっている。

委員) 緑化委員になった児童がみどりの少年団になれるという事を児童が把握しているか。児童が委員会を決める際にみどりの少年団という活動がある事を知っていれば、それを知ってみどりの少年団をやりたいという児童がいるかもしれない。

事務局) 校長会で依頼をして小学校には協力してもらっているが、その後小学校でどのように児童に伝わっているかは把握していない。各学校の校長先生には今後依頼する際に児童にも広く知ってもらうよう協力を仰いでいく。

委員長) 今は輪番制で行っているとのことだが、過去に自由応募等をおこなったことはあるか。教育委員会との兼ね合いはあるが、良い活動であるのもっと広げられると良い。

委員) コミュニティ運営の経験上、今学校との連携は先生たちの負担も大きくなり難しくなっている。

事務局) 自由応募については行ったことはない。学校の負担等から輪番制で行っている。他市の状況を聞くとみどりの少年団の継続自体が危ぶまれている状況であるため、学校とうまく連携できている現在の状況で継続していきたい。

委員) 昨年度は常滑市で交歓会が行われたようだが、この時は何本ぐらい植樹したかわかるか。

事務局) 事務局が常滑市であったため把握していない。過去に大府市で交歓会を行った時は桜を3本植えた。

委員) 過去に知り合いでみどりの少年団の全国大会に行ったことがあると話していたが、現在もあるのか。

事務局) おそらく全国植樹祭に参加したことがあるのではないかと。5年前に尾張旭市で行われたが、その時は愛知県内のみどりの少年団が集まった。

## (2) 提案型緑花推進事業中間報告について【資料2】

事務局) ---【資料に基づき中間報告について説明】---

委員) 猛暑の影響はあったか。

事務局) 花の生育にはかなり悪影響があったようだ。中間報告でも枯れてしまったとの声も聞いている。

委員長) 各団体水やりの問題はどうか。

委員) 各団体工夫しながらやっているようだ。

事務局) 以前から相談はあるが、中々難しい。近隣に公園等、水道があればそれを利用しているようだが、そうでない場合は各団体に工夫して協力してもらっている状況だ。

委員) インスタグラムはただの投稿だとすぐに埋もれてしまうため、リール機能を利用して目に付きやすいようにした方が良い。

事務局) 市の広報部門とも調整していきたい。

委員長) 広報と連携してだと完成した花の写真などに偏ってしまいそうだが、できれば活動している様子も掲載して欲しい。各団体にSNSを利用できる人がいるなら活動を積極的に発信して欲しい。

委員) 活動を知って欲しいため、是非そうして欲しい。

委員) 写真がキレイじゃないとなかなか目に留まらない。また、個人情報の観点等から掲載する写真の選定も慣れていない人でなければ難しい。広報部門の職員に協力してもらえれば写真を撮りに行ってもらうと良いのではないかと。

事務局) 広報部門も市のSNSを利用するにあたり、広報の職員が撮影したものしか掲載しないようなので、今後依頼していきたい。今、ニツ池にミズクラゲが発生しており、セレクトナで水槽に入れて展示している。それは広報に依頼してSNSに掲載された。

委員) セレクトナは住んでいるエリアによっては遠くに行くのが難しい。可能なら市内の公民館や児童センターでも展示できると良い。

事務局) ミズクラゲは水槽にぶつかって弱るなど、強い生き物ではないようなので他での展示は難しいと考えられる。

## (3) 公園整備計画について【資料3】

事務局) ---【資料に基づきニツ池公園里山林整備事業について説明】---

委員) この整備のコンセプトの中で既存の樹木を極力残すとのことだが、樹種としては何が多いか。また大きい木はあったか。

事務局) 現地確認はしており、クヌギやマツが多い。すごく大きい木はなかった。

委員) 子ども広場には何ができるのか。

事務局) 図上の子ども広場はすでに整備されている場所になるため、今回新しく整備はしない。

委員) 園路はランニングしやすいよう色分けしたり、水はけの良くなるような整備をして欲しい。

委員) 新しい場所には車椅子の人でも簡単にいれるようになっているか。

事務局) デイキャンプ場の近くをスロープで整備していく予定である。

委員) そのスロープの所に余裕があればレイズドベッドのような車椅子の人でも見やすい花壇を設けると良い。目の見えない人でも楽しめるようにハーブの匂いが楽しめたり、録音でもいので鳥のさえずりが聞けると良い。

委員長) レイズドベッドは東海市の聚楽園公園が取り入れていたはずである。あの公園内に障がい者施設があるため、そのような人達にも公園を楽しんでもらいたいというコンセプトから取り入れられてい

る。

- 委 員) 園芸福祉の勉強をしていた時に自分が作った花壇を車椅子の高さで見てみたら茎のあたりしか見えなかった。一部でもあると喜ばれる。
- 委 員) 愛知県植樹祭の会場予定になっている所に行く際に、スロープはデイキャンプ場まで回らないとないのか。
- 事務局) 第一駐車場側に歩道があり、信号のある交差点まで回ってもらえれば車椅子やベビーカーでも植樹祭会場前の側から園内に入ることができる。
- 委 員) 公園側にロータリーやピックアップできるようなスペースを設けることができればなおよい。
- 委員長) 令和8年度の植樹祭会場になるという事なので、先ほど話が出たみどりの少年団にも活動する場が与えられると思われるので学校と連携して児童に広く知ってもらえるようにしてもらいたい。
- 事務局) 学校側にはみどりの少年団以外にも標語やポスターの募集をする予定である。また植樹祭で配布予定の苗を育ててもらう予定なので児童にも広く知ってもらえるようにしたい。
- 委 員) 種団子を作るスペースができるなら作って欲しい。

#### (4) シビックガーデンコンテストの見直しについて【資料4】

事務局) ---【資料に基づき見直し案について説明】---

- 委 員) 写真の募集とのことだが、写真の撮影がすごく上手だと実物と全く違うことがある。マンションに住んでいる人も対象となるよう工夫して欲しい。
- 委員長) これまで行ってきたコンテストの要素も継承するのか、変えるのかという所もあるが今回は多くの参加者を募るため、コンテストの要素を弱めたということか。
- 事務局) そのとおりである。ただ、これまでのように市役所で展示をし、見てもらった人に良かった写真に対してSNSの「いいね」のようなシールを貼ったりできるようにしようと考えている。
- 委員長) それならば、写真を募集する際、ある程度部門分けをした方が良いのではないか。
- 委 員) あくまで応募者のベストショットなので、応募者が気に入った花や庭を工夫して撮影された写真を展示すればよいのではないか。完成度を求めると結局たくさんの種類の花を育てた人や、大きな庭で育てた人しか応募しなくなる。
- 委員長) 色んなベストショットがあって良いとは思っている。ただ、これまでのコンテストとは形式が変わるのでここできちんと内容の精査をしないといけないと感じている。
- 委 員) 育てることも大切だと思う。ただ、日々の生活の中で気に入った花を愛することも花の楽しみ方の一つではあると思う。
- 委 員) 写真だけだと本当に応募者のものかわからなかったり、応募数が膨大になって大変ではないか。
- 事務局) 事務局としては参加者が固定化されている事や、参加者の敷居を下げたいという思いがあった。また育てた人の思いなどを投稿できるような投稿欄も設けようと考えている。
- 委 員) 一人が複数投稿できないような対策はとれるか。
- 事務局) それは利用を考えている応募フォームで可能である。
- 委 員) 寄せ植え講座は7月から9月は植えられる花が少ないため開催は難しいと思う。春か秋が理想。
- 委 員) 園芸は種から育てるのも一つだし、育ったものを植え込むのも一つである。アイデアを褒めるような賞はあっても良いのではないか。
- 委員長) 今回議題に挙げてもらった案も良いと思うが、これまでのコンテスト形式から内容が大きく変わるため、いろんな意見があると思う。提案として、来年度はコンテストは行うが現地審査を無くした形で行い、市民の方には良い写真をたくさん撮ってもらい、再来年に案のようなコンテスト要素も入れた形式で行ってはどうか。
- 委 員) 花といっても切り花やドライフラワーなど様々なものがあるので応募できる条件の整理しておいて欲しい。
- 委 員) 植物も様々な植物があるため、写真のみで応募を募る際はある程度、見る側の知識も必要になってくる。
- 委 員) 部門が多すぎるとわかりにくくなってしまい、結局応募数が伸びないと思うので、部門分けをするなら2つ程度にとどめた方がよい。制約が増え注意事項が増えるのも参加者が敬遠する理由になってしまうためできるだけシンプルなルールが良い。

委員長) 課題として裾野を広げるという観点から今回事務局から提案いただいたが、様々な意見があった。  
一度に全てを変えるのは難しいように感じたため、2段階で変えていくことも検討して欲しい。

### 3. その他

(1) 横根平子2号公園のワークショップの開催について  
---【ワークショップの進行状況について説明】---

(2) 次回の開催予定について  
令和7年2月頃